

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	林業課長 桑本 幸夫	電話番号	0852-22-5167
----------	------------	------	--------------

事務事業の名称	県有林整備事業		
目的	(1) 対象	県民	
	(2) 意図	森林資源の育成と、公益的機能の高度発揮を両立した森林の管理・経営を実践することにより持続的な森林経営の普及、啓発を図る。	
事業概要	県有林管理・経営計画に基づき、森林施業の実施、林産物の生産、林内路網など県有林施設の維持管理を行うと共に、模範的な森林管理・経営を実践する県有林を利用する研修等を通じて、林業関係者への普及、啓発を図る。		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 県有林での林業普及研修等受講者数	目標値		65.0	65.0	65.0	65.0	人
		取組目標値						
	式・定義 研修等受講者数	実績値	39.0					
		達成率	-	-	-	-	-	%
2	指標名	目標値						
		取組目標値						
	式・定義	実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	10,762	10,948
うち一般財源 (千円)	4,377	7,025

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

前計画で指標としていた森林整備量は目標値を達成した。  
 県有林を利用した研修等回数、受講者数は近年横ばい傾向で推移している。(H25~H27、2~4回開催、28人~43人受講)

6. 成果があったこと(改善されたこと)

松枯れやナラ枯れ被害拡大を防ぐため、道路沿いを中心に被害木の駆除を実施した。

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

- ①困っている「状況」  
 普及啓発促進するためには県有林を利用する研修等を増加させていく必要がある。
- ②困っている状況が発生している「原因」  
 県有林を研修等のフィールドで使ってもらうための情報提供等が不足している。
- ③原因を解消するための「課題」  
 ・研修等主催機関に研修等のフィールドとしての活用を検討してもらう必要がある。  
 ・新たな研修、見学会等を創設する必要がある。

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

- ・研修等主催機関へ模範的な森林を有する県有林の情報を提供し、研修等のフィールドとしての活用を検討してもらう。
- ・新たな研修、見学会等を企画立案し、研修等主催機関へ提案する。
- ・民有林の模範となるよう引き続き県有林の適切な管理、経営を実践する。

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効果的・効果的に行ってください。  
 ・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価(任意記載)